



広報 はむら

7月1日号
令和6(2024)年



市民公募 Photo

「蓮日の出」
撮影：河野 裕子さん
場所：根がらみ前水田
撮影日：令和5年7月19日

愛情ギュッとず〜とはむら

第80回

羽村ゆとろぎ寄席

主催・制作：(公社)落語芸術協会 後援：羽村市教育委員会

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業＜芸術家等人材育成＞）／（独）日本芸術文化振興会

特別ゲスト

▶桂 米福



▶三代目
松林 伯知



日 時 9月29日(日)午後2時（開場…午後1時30分）

会 場 プリモホールゆとろぎ小ホール

チケット発売 7月2日(火)

一般：（前売）1,000円・（当日）1,200円／高校生以下：500円 ※未就学児入場不可

出 演 【特別ゲスト】桂 米福（落語）、三代目 松林 伯知（講談）
ナオユキ（スタンダップコメディ）、桂 銀治（落語）、立川 幸路（落語）

問合せ プリモホールゆとろぎ ☎570-0707

プレイガイド

【窓口販売】

- ゆとろぎ（午前9時～午後8時。祝日以外の月曜日休館）
- S&Dスポーツアリーナ羽村（午前9時～午後5時。祝日以外の月曜日休館）
- 西多摩新聞社チケットサービス（午前10時～午後5時。土・日曜日定休）

【インターネット販売】

- 右の二次元コードから



ゆとろぎオンライン
チケット▲



ゆとろぎインターネット
・チケットサービス▲

||||||| さまざまなことにチャレンジしているはむらのすごい人を紹介！ |||||



ふるさわ じゅ み
古澤 寿実 さん【音訳者】

（一社）日本話しことば協会会員／東京都認定朗読奉仕員指導者
2018年「第10回古典の日」朗読コンテスト大賞受賞

朗読・音訳など、文字を声で表現するボランティア活動に30年以上携わっている。「声の広報」の読み手の1人。楽器や歌とコラボした朗読会など、個人としても活躍中。



——「朗読」と「音訳」はどう
違うのですか

「朗読」は読み手の解釈を入れて気持ちを入れて読む、「音訳」は書いてあることを書いてある通りに読む、と言われます。

「音訳」は、文章を読むことが難しい方の読書のお手伝いだと考えています。言葉そのものが持つ力を大切に、自分の解釈は入れずに読んで、どう感じるかは聞き手に委ねます。対面朗読や声の広報などは音訳になりますね。本に限らず、例えば家電の取扱説明書なども読みます（笑）。書体が変わったとかカッコに入っているとか、「（中黒）」と「（読点）」の違いが分かるようになど、読み方にも工夫が必要です。絵や写真、グラフなどをどう読むかは、音訳者の力量が問われるところです。

——「声」を使った活動に関心
を持ったきっかけは

若い頃から朗読したりするのが好きだったので、平成元年に羽村市に越してきた時に、音訳の講座に参加したんです。そして「声のボランティア桑の実」に加入して、声のボランティア活動を始めました。その後、東京都の講習会や講座などに出席するようになって、今も先生に

ついて勉強が続いています。
——活動の魅力は何ですか

「声」だから伝わること、文字が声になることが楽しいですね。声の広報も、1号読み終えることに達成感があります。もう30年以上続けているので、「朗読・音訳」もボランティア活動も日常の一部になっています。

一般の方に広報紙が届くように、読むことが難しい人にも当たり前に情報が届くべきだと思うんです。だから図書館の対面朗読の利用なども、もっと増えたいと思います。

使命感とかそういう大きなことではなく、たまたま読むお手伝いができる状況に自分があるの、声の続く限りこの活動を続けたいと思っています。



▲対面朗読の様子。下読みができないのでその場で辞書を引くこともあります。

■この秋、古澤さんが講師の音訳講座を開講予定です。詳しくは決まり次第、広報はむらでお知らせします。



広報はむらは再生紙を使用しています

市公式サイト



羽やすめ



X



Facebook



Instagram



YouTube



LINE

